



ソロモン海戦々果

並に太平洋戦々果
海軍省最近の発表

(華府廿五日I.N.S.報) 本日米國海軍省はソロモン島海戦に於ける米國船の損失を次の如く発表した。

驅逐艦チャーヴス号(千五百七) 及軍用船リッパル号はソロモン海戦で沈没した。

傳ふる所によれば右の海將兵等二百五十名は戦死した。チャーヴス号乗組員百七十五名、リッパル号乗組員百五十名乃至二百名と見られて居る。

艦長ワクラム及グロフバーク両將は戦死した。ソロモン島戦区に於ける米國船艦十隻を犠牲とした。

(註) 日米開戦以來太平洋上に於ける米國船艦沈没数は四十三隻、損傷数は十二隻、合計五十五隻とあり、其中駆逐艦は七隻。

ロズバーク
由本所
知事局
九月五日
金曜日
行
ソニセ号

スターリングラド戦況

(モスクワ廿三日ロP報) スターリングラド包圍一ヶ月に及ぶが、独逸軍占領地帯上流西北部は赤露海軍の援助砲撃の爲め形勢一轉し、七度奪還を試みたる独逸軍は終に其陣地を放棄した。

ハワイ便り

布哇に新紙幣

△目下布哇新紙幣が多量に到着し、乃て米國紙幣との交換は内滑に行はれてゐると云ふが、外國資産統制官アルフレッド・ワッリー氏は右の如く注意した。

「一般人は軍服を穿けたる海軍々人以外には米國紙幣を受取るべきでない。海軍々人から受取つた米國紙幣は釣銭に使用せず、銀行に預けるか、布哇新紙幣と交換せよ。又布哇紙幣は縣外へ出してはならぬ。違ふ者は嚴罰に處す。」

△加哇島選定下院議員大塚勇吉氏、今秋の豫選に再び出馬すべく、縣書記官の手許に立候補届出をあげた。今圓

日米市民にして立候補したのは大塚氏のみにしよ。

アリゾナだより

元ミゾラキヤアポ市長足田庄太郎氏はアリゾナ州リグアリスに在るが、本社の消息した。知友によろしくと書きたる。次、如く叙した。

「當所は既に一万二千人に達し、尚加州より最近に三千人移轉し、来るべく候。當所は永久的設計なる大々に比較便利なるし、完成までには相當時間と要すかと見度せし外候。例へば湯沈溜、アイロン等の設備未完にして、メスホール便所等は平均二百呎の共同使用の中に候。昨日までは炎暑烈しかりし、當所は秋近づくと共に漸く涼みやすく相成り始め候云々云々」

寄贈一束

畧きに運動用具、並にローザンセルスタイムスと寄贈された。ビスマーク收容者は今後教育に亘り、新同同様各中隊へ在籍ライフとタイムとを寄贈する。

第三大隊第十二中隊第三收容隊の氏は家族の手に成れり。遺花(リズ)を病院室脇

佛敎研究會(第百)

(時) 廿五日(金) 夜七時半より
(所) 第六中隊 食堂
(講師) 藤谷晃道先生

印度佛跡を語る

往年師が種命を帯びて印度に使用した。ネパール、アータンの神境に辛酸をたれ、水たる探見苦心談

時事解説

(時) 廿六日(土) 夜七時半
(所) 第五中隊 社交室
(講師) 安倍俊吾先生

明快ある先生獨特。時事解説、万人待望の時局談、今後毎週土曜日夜開講。

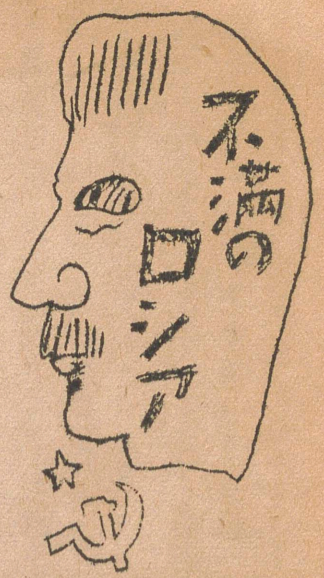
病院より

入院者 竹原武雄(和歌山)
竹原国太郎(越前) 安田正人(石島)

正誤

昨紙所報、凡ハソノ理由、日本人五百名、乗車は十八台、一車に十八人とするは廿八人の誤

Handwritten notes on the right margin.



廿五日のエルバソ
タイムズ紙所論

モスコウからの新聞報道にウエ
デル、エル、ウイルキーの言を引用
して曰ふ

ウイルキーは米英が第二線を聞くに
失敗する為には露國にては日に失望と
不満が増しつゝあるといふ。米産話
者も露國す云と曰

又報して曰く
去る六月十日米英露三国が露國に
一協約せる以来、モスコウに於ける外
國人は露國官民から逐日冷遇さる
ることは今は秘密ではおいて、
吾人が露國露國を充分に援助した
かつたは、想像を逞しくすれば言ひ得
るなりとす

口大統領とチャーチル首相とは露國
戦線は今日以前に開かれりたらしと信
すべし理由をスターリンに與へた。予
米英は全く利己的見地から勝手

に振舞ひ三月以前から和自佛又は
諾威を通じヒトラーを攻撃する
準備をしたとかさへ振舞つた。

此間独露は激戦に入り人カと武
器とを横じ英米は次第に強カとふ
つた。巷間の語を以て言へば露西
軍は我々の為めに強を弱わめ、我々が
獨を攻撃するの日に強は一年前
よりは弱はくあることを我々
は發見するたらし。

尤もタイムズ紙は三月以前には英
米は第二戦線を開くの位置にあつ
たと信しよ

けれども結果は同様である。露は
今猶ほ獨人を殺害しつゝあり、我
我が攻撃する。時列は其時ヒ
トラーは多くの兵員と武器とを
失つてゐるたらし。

露國の失望と不満とは尤もで
ある。ヒトラーが露國を逐んで其
怒の猛鋒を加へたるは吾人の過失
にあらず。適當の時刻は吾人はナ
チス整理に其分を尽し露國を救ふべ
し。これではスターリンは出来るだけ
の事を爲すたらし。

同胞廿七名来る

昨廿四日午後六時半サンタフィー
ケ二十七名の同胞が来て、第三大隊
第六中隊第七寮に入つた。是にて
サンタフィーの同胞は全部引上げた

英語たより (24)

(一)昨夜は満月だった (二)気持ちの好
い晩だった (三)シャワーを浴びた後
で、月見をした (四)ギヤースト
グを使ひ始めた (五)自衛的で、街
生上良いんだ (六)このストグは思
つたほど騒々しくない (七)ドラ
ムかどぶと、耳ざわりの好い音
(八)松風の音といふところか
(九)私は好きだ (十)皆喜んでる

(1)The moon was full
last night. (2)It was
a pleasant evening.
(3)After taking
shower bath, I enjoyed
the moonlight. (4)We
began to use gas
stoves in camp. (5)It
is automatic and good
for health. (6)This
stove isn't so noisy
as we thought. (7)It
makes rather a pleasing
sound. (8)Its sound is
like the whispering of
wind among the pines,
I think. (9)I like it.
(10)We are glad to have it.

第十三大隊員名録

第十二中隊第七寮

靜岡縣 入沢時次郎、川口忠一郎

久保田徳郎、久保田寅吉

久保田一、櫻田豊吉

宮城島庄作、内藤寅吉

和歌山縣 萱原孫助、河野栄次郎

大津睦一郎、須賀重吉

尾崎新太郎、松野義三郎

前田直市、松原喜次郎

神奈川縣 星馬福太郎、永作富藏

高橋秀夫

鹿児島縣 国庄納一、向井義雄

大阪市 宇住宗雄三郎

福島縣 愛沢 宏

千葉縣 在原善太郎

長野縣 藤原健吾

岐阜縣 河渡善太郎

石川縣 今村宗太郎

三重縣 石垣初太郎

山口縣 布谷義雄

廣島縣 平田信吉

大分縣 栗林齊